

Dreams Come True

発行：進路担当

第 1 回進路希望調査について



この通信とともに、第 1 回進路希望調査のプリントを配布します。
書いてもらう内容は、大きく分けると次の 2 点です。

1. 希望する進路は進学ですか？就職ですか？
2. 進学先または就職先の具体的な希望はありますか？（例えば学校名や事業所名など）

2 つの内容について、しっかり考えたうえで記入・提出をしてください。

また、まだ保護者の方と進路についての話をしていない人は、この機会に進路について話をしておきましょう。
希望した人は家庭訪問もありましたし、保護者の方と担任の先生で、進路についてお話して下さったかもしれません。保護者の方のサポートなしでは、進路は実現できません。後になって「進路のことで保護者とケンカした……」とならないように、早めに相談をするようにしましょう。

まだ何も決まっていない……という人もいると思いますが、あくまで「現時点」での希望調査です。毎年、この第 1 回の希望調査通りの進路をすすむ人ばかりではなく、夏・秋の体験入学を経て変更していく人はたくさんいます。「結局、自分は 1 年後にどうしたいのかなぁ」と、ゆっくり自分を見つめて考え、提出してくださいね。

【記入上の注意】※願書や手続き依頼書など、紙で提出が必要なものについても同様に記入してください

- えんぴつ書きではなく、ボールペンで記入します。（フリクション等、消えるボールペンは不可）
- 記入漏れがないように、楷書で記入します。（生徒名、保護者名なども必ず記入する）
また、項目は全て埋めるようにします。（書き方が不明な場合などは、お問い合わせください）
- 「印」の記載がある場合は、保護者が責任をもって捺印してください。

（今回の希望調査については不要ですが、書類によって印が必要な場合があります）

- 記入は本人が行います。（保護者名のみ保護者、それ以外の部分は生徒が自分で記入します）
基本的に、保護者名の部分は筆跡が異なることになるはずですので、よろしくお願いします。
- 学校名・学科名は、正しく記入しましょう。（存在しない学校・学科名を書かないように）
この通信とともに、学校・学科名の一覧を付けておきますので参考にしてください。
- 用紙は大切に扱い、きれいな状態で出せるようにする。（グチャグチャで出さない）

【提出方法について】

- 提出は、朝に担任の先生に提出します。希望調査と一緒に配布されたファイルに入れて、提出してください。
（このファイルは、一年間使用します。なくさないように、気をつけて管理してください。）

提出〆切：5 月 26 日（火）厳守

（早めに提出するようにしましょう。）

コラム

「ここなら行けるって」の基準とは。 ～ 私立・県立で異なる、合格判定のちがい ～

入試の担当をしていると、毎年のように「せんせー、私はどこやったら行けますかー？」という質問をされます。あるいは、「〇〇高校って、偏差値どのくらいですかー？」という質問も、よくされます。入試の合格・不合格がどのように決まっているかをちゃんと知っていると、こういった疑問はあまり出てこないように思います。ちょっと、このコーナーで説明しておきますね。参考にしてください。

高校の可否の判定は、「私立」なのか「県立」なのかによって、下のように大きく異なります。これは、入試制度の違いによるものです。

【私立】

「専願」と「併願」がある。入試が県立より先にあるので、「専願」の生徒については合格させたら必ず入学するから人数がはっきりするが、「併願」については、県立の入試の結果しだいだから、どうやって合格を決めるのかが難しい。私立高校にも「定員」が決まっており、これは申請して許可されるものだから、勝手に高校の都合で増やしたり減らしたりできない。学校の設備も限られているので、予定より多すぎる生徒が入ってくると、教室が足りなくなってしまう。（実際、合格させすぎてクラス数が増えてしまうと、国や県から指導されてしまうことになる）

そこで、ほとんどの私立高校では、併願の生徒の「戻り率」、つまり、「県立が不合格になり私立高校に入学になる人数の割合」を予測して、慎重に合格のラインを決定しておられます。例年のデータも参考にされますが、特に「その年の県立高校の志望の状況」なども参考にされますので、この合格ラインは年によって大きく前後することになります。私立高校に受験に来る生徒の学力も年によって違うので、「去年の過去問だと合格最低点が〇〇点だったけど、私はそれより少し上の点が取れたから、絶対合格だ。」とは、必ずしも言えない、ということです。



【県立】

全員が「専願」となるので、いわば椅子取りゲームのように決まります。定員を超えて合格させることは、ありません。ですので、いわゆる「定員割れ」となれば、よほどのことがない限り合格となります。

全員の入試の点数と調査書（いわゆる内申）の評価が良い順に、定員いっぱいまで取られるということになりますので、

●その年の定員 ●受けに来た人数（倍率） ●受検している生徒
によって、合格ラインは相当左右することになります。

たとえば、ある高校で「去年はこの時期の実力テストで 300 点の生徒が余裕で合格できたから、今年も大丈夫だ」と考えて受検をしたとしても、その年の倍率が高かったり、受けに来た生徒の学力や成績が高かったりすると、「350 点の生徒でも不合格になってきてしまう」ということは、よく起こることです。

ですので、前の年の点数や成績だけでは、正確な判断ができずに、結果として不合格になることはよくあります。各高校の「偏差値」は、まさに去年までのデータを参考にしているものなので、参考程度にはなりますが、鵜呑みにするのはとても危険なのです。実は、学校の進路指導では、より正確に判定をするために、「偏差値」は使用していません。

上のようなことから、今の段階ではもちろん、受けてみるまで「絶対受かる」「絶対落ちる」などということとは、全くないということです。なので、「ここなら行ける」かどうかは、実際に受けてみないとわかりません。また、偏差値についても、あくまで「もしあなたが去年受けていたら……」という情報なので、参考程度だよ、ということを理解しておきましょう。

また、合否のラインは毎年変わるのですが、高校側で「今年の生徒は合否のラインが低かったから、そこに合わせて学習のペースを落とそう……」というようなことは、基本的に行われません。各高校のカリキュラムはそう簡単に変えられないので、例年と同じペースに進めていかれます。なので、「とりあえず受かったら大丈夫」という考え方は危険です。「実際に高校に行ってから、ついていけるかどうか」ということを考えて、高校を選ぶことが大切です。（ここ数年でも、ギリギリで合格したけど学習のペースについていけず途中で辞める生徒が、とてもたくさん出てしまっています）できることなら、進学している先輩たちがどう言っているかを聞くと、とても参考になると思います。

加えて、「学力のことしか考えていない」形で進学した人は、その後高校が合わずに辞めてしまうケースがちらほらあります。高校にはそれぞれ、「校風」と言われるものがあります。同じ学力だとされる高校でも、学校の雰囲気や先生方の様子、部活動の特徴や行事など……かなり異なっています。学力面だけでなく、オープンキャンパスなどを利用して、どんな学校なのか実際に体験して考えるようにしましょう。

「行けるから、行く」のではなく、「行きたいから、行く」。 そんな、進路の実現のために。

友達、先輩、塾、先生、家族……みんな、キミの事を思ってアドバイスをくれます。それは、とてもありがたいこと。

でも、キミの人生は、キミが切り開くもの。納得がいく進路選択を、自分の手で行いましょう。